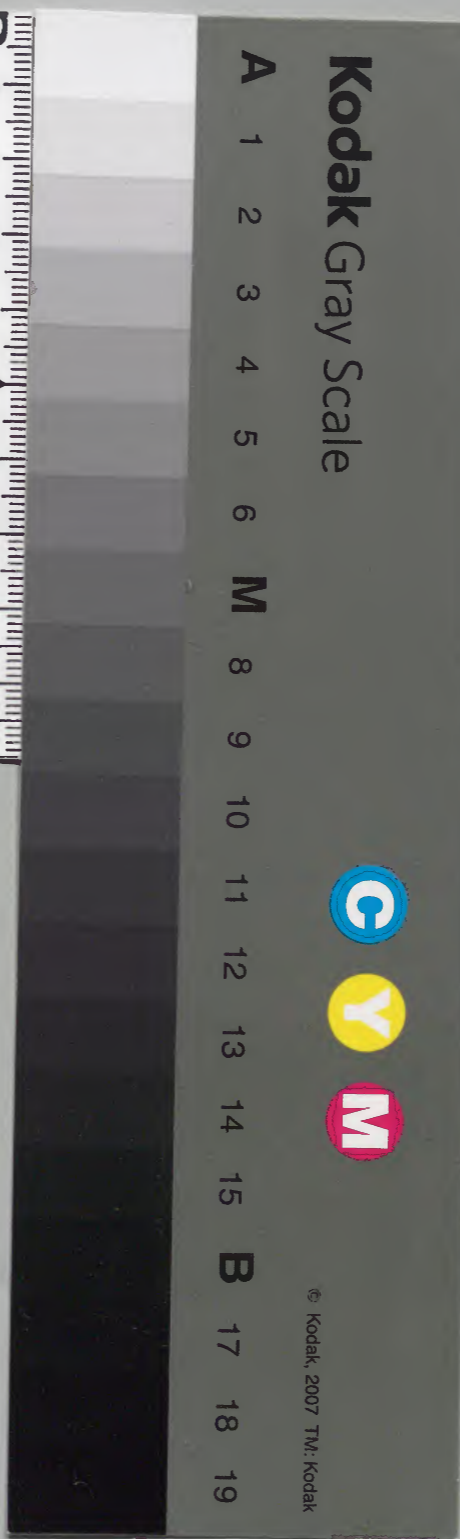


			二九	和
		一七	三	書
三五	一三	函	五	門
冊	架	號	類	

庫	文	閣	內	
七五	二九	三	和	
函	三	五	書	
架	冊	號	類	

內閣文庫	
番號	和 29315
冊數	35 (19)
函號	175 172

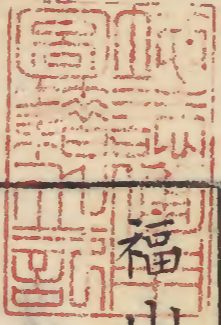
地五七



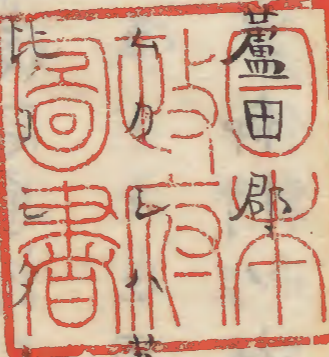
福山志稿卷十九

邑里第九

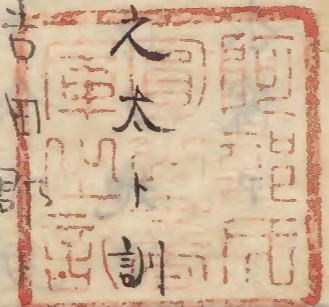
丙一一〇一五號



蘆田



蘆田 下書之 和名抄 安之



和名抄國府在葦田郡行程上十一日下六日

同書御六

佐味

廣谿

今村也

葦浦

今ノ常村

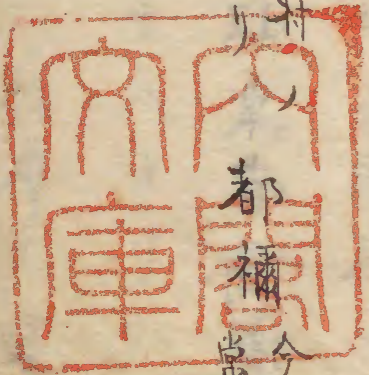
都

都補

今ノ常村

葦田 驛家

延喜式神名帳二座



賀武奈備神社

國高依彦神社

日本紀應神天皇紀曰、便自淡路、轉以幸吉備、遊小豆島、庚寅移居於葉田葦守宮。

日本紀通證曰、倭名鈔備前國上道郡幡多、備中國賀夜郡足守、或曰宮趾在備後國葦田郡。

備後志通證、葉田中古ヨリ音ニトナヘ訛ラ

蓋ヨウドト云用土トカリ今土生村ニソノ地ア

リテ御門ノ社ト云アリ神躰東帶ノ木像アリ

ト云

續日本紀養老三

常城

今常村アレト  
王敷趾ニエス

此郡モムカシ大ナリシヤ甲努郡モトテト云村ハ品治

又割テコ、ニ隸セシハアリシナリカ今又ハ今ノ境

南ハ御調沼隈東ハ品治西北ハ世羅甲努ニ至

ル郡中大川東流スコレヲ葦田川ト云西北ハ

皆山ニテ東南ニ原野アリムカシノ國府ナラ

ト近邊教村ノ中ニアリ元和ノ頃統

フル所ノ村二十五今統ル所二十八ナリ

福田相方下有地 上有地 柞摩 栗柄

土生 中須 高木 府川 廣谿 町村  
 本山 府中 出口 荒谷 藤尾 常 金丸  
 桑木 行騰 木野山 阿字 久佐 河面  
 上山 父石 目崎  
 福田村 三里 戌亥 當山 村東西 二十一町五  
 十五間 南北 五十二町 十二間  
 田畝  
 百六十一町 五反 三畝 二步

内畠 六十八町 七反 九畝 二十五步  
 千六百八十九石 八斗 六升 五合  
 内畠 五百二十三石 四斗 七升 九合  
 市原 戸口  
 戸 四百二十五  
 口 千九百三十五  
 内女 九百二十二 僧 六 磬 九 外 乞 食 七  
 畜  
 牛 百七十九 馬 三十一

半百溝渠

蘆田川

有地川

下有地村ヨリ向永谷ノ落ル

別處谷川

市原谷川

十間ナリ

蕩

横十間長七十二間スクモ塚ニアリ古城アル

處ナレハ塚ノ又上北ナルル

池塘

瀬來池

小周二丁五十四間

七ツ池谷ノ大池

水周三丁十九間

魚免池

水周二丁二十間

觀音堂池

水周三丁二十一間

留谷池

曾周十二町五十七間

小池四十七間

堰間

横土手堀

長六間二尺横五尺一寸高三尺二寸

水碓一十八間

橋約

小橋三十四間

山溪

嶺一

鍋峠山嶽土真泉火照古木音聞基孫春土入

西赤坂村ニ通シ又新市宮内ヨリ松永尾道上

小橋通ス

廟墓

八幡宮二社

古一ハ亀山ト云生土神也一ハ宮ノ窪ト云

長大明神

古屋ト云所ニアリ

三宮大明神

明迫ニアリ日女大明神ト云アリテ明細書ニ

ノヤス此社ニハアラスヤ

荒神二社

大日西御堂

小祠三十五

古墓

福田寺靈光寺ノ跡等ニ大ナル五輪アリトモ

没字碑ナリ

塔寺

西教寺

清水山浄土真宗光照寺末寺開基教春上人

福性院

法輪山真言宗明王院末寺

小佛屋五

惣亭八

大砂東御堂ニ峯靈光寺跡ニ福田寺門

前福田寺跡

古蹟

宇佐山城

城全シレズ

明光山城

即福田遠江守盛雅開城近江守森春ハ盛雅又十

是リ古郡記備一宮ニ遠江守カ順礼礼ト云モノ

中アリ宮内ノ條ニ出ス

六郡志ノ初由遠江守ハ尼子毛利ノ節ノ奉

古郡志ノ初由遠江守ハ尼子毛利ノ節ノ奉

大ノ以漸來伊賀垣飽十次即市差次部院也

時也云者遠江守カ長年ノ一々ニカ浦江

小舟今ノ之傳テ所ノ字トヤリ岡田氏ノ

西ノ故也其末也其也

桂平山城津土真京丸殿寺才寺開基辰春上人

光成左京之進ト云傳ノ

利錦山城

光成左京之進隆正備後古

新三郎興家

本古城記ニ大内家ノ士ナリ先祖ハ櫻山

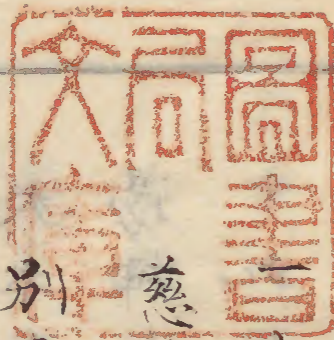
慈俊ニ隨ヒシト云福田カ城トハ同山ニテ

別處ナリ

スケモ塚

有地玄番備後古

福田寺跡





六郡志に福世院の脇に少き山ありて古き石塔あり今十五名ありとの字あり

古塚

大本谷

湯神谷

此外二ツあり此年前石踊りて崩れト云

孝子

宇兵衛

總叙ニ出

女菊

田畝

三十五丁八反九畝六步

内畠二十八町二反四畝二十九步

歳額

二百六十四石五斗六升二合

内畠百九十三石四斗五升八合

戸口

戸百十

口五百六十

内廿二百八十四外僧三穢多百十二

畜

牛三十八 馬二

溝渠

蘆田川

栗柄村中津村界ヨリ戸手村福田村界マテ長

千四百間

蘆田川此村ヨリ上香魚多ク村人魚梁ヲ架シ

テコレヲトル里諺ニ瀬切染ト云秋分ノ比モ

トモ多シシカレトモコノコトツカサトル人

アリミタリニユルサスル  
 池塘  
 後谷池  
 周五丁四十五間  
 塩首池  
 周二丁五間  
 小池五  
 半三山溪  
 嶺三音  
 城平二百八十四代新三殿百十二

下有地ニ通ス宮内新市ヨリ尾道へ出ル路  
 也  
 上塩首  
 上ニ同シ  
 下塩首  
 福田ニ通ス宮内新市ヨリ松永工出ル路也  
 廟墓  
 小祠六  
 此村下有地村ノ良大明神ヲ生土トシマツル  
 本塔寺

本泉寺

旭照山法華宗

六郎志天又弘治のころ足藏院日継大徳開基

といふいふころのころの京都本能寺攝州本興

寺西寺の末寺なり日継ハ天正十年正月十五

日は遷化先第六世顯隆院よりハ是を帳さ

りて在り墓のと有とつくと此後とつと

ふりていふいふの観音寺とつと真玄此なりと

口碑よつとつとつとつとつと

観音堂

城山人麓会アリモトノ観音寺ナリシヤ観音

寺ナリ云云天正十年前難をりて此寺ナリ

釋迦堂

通證ニ新市本住寺ノアトナリト云

古蹟

相方城

六郎志云神地をとし之所ハ代古城石垣を多

く崩したるも當城ハ石墨金一て馬出ハ垢

かこれ形此ハ水ノ今よその石をとりて傷損

此のころなりとつとつとつとつと

通證云天王寺ノ一代有地又左衛門カ子ナリ  
シトキヨリ人ノ石ヲトルコトヲ禁ス只天王  
寺ノシトレトモ禁スル人ナク今ニナタルト  
云  
卧城全馬屋原監物  
備後古城記ニ大永年中有地美作守元盛家  
臣ト云  
有地民部少輔元盛  
同書云天正年中有地ヨリコハニ移ル  
觀郡今按陰徳太平記ニ毛利家ノ兵備前國ノ

カカヒシニ從テ蜂濱ノ合戰ニ古志清左衛  
門村上八郎左衛門植木下總守等ト同シク  
古  
手痛クタハカヒシトキ宇喜多ク甥共太郎  
基家味方ノ兵ヲ屬シテ突来リケルヲ力戦  
シテ打ヤフルアマリニ勞レケレハ宇喜多  
カ兵五六人落合セ有地ヲ取テヲサハ巳ニ  
危クイエシトキ甥十儿次郎右衛門尉其敵  
ヲ切ナラシテ元盛ヲ助ク既ニシテ共太郎  
基家鳥銃ニ中リテ討死シ宇喜多カ兵散ル  
ニ敗北シタルコト各クニニ他書ト異ナル

事アリ總叙ニ詳ナリ備後古城記ニ有地力  
 家臣馬屋原下江平田後藤井上等ノ勇士ニ  
 ヲ西備名區ニ城内ニ浮田典太郎基家カ首  
 塚アリト傳フレトモソノ處ニレサリシニ  
 近頃大川堤ノ用ニ石垣ヲクツレ用ユソノ  
 トキ缺ニ刀ト人ノ首ヲ入レテ出スエシ基  
 家カ首ナラント云  
 千葉修理進  
 明細書ニ云クノ人家後ニ後藤ト号シ今尚

古城

子孫多シト云

古塚

横二間ハカリ三深三間ハカリ

附

此村ノ位高橋甚六ト云モノニ宮ノ伶人トテ  
 一宮ニテ無言ノ舞ト云ヲ舞フ或ハ人ニ舞シ  
 ムル時ハ此家ヨリ傳授ス其家ニ陵王ノ舞譜  
 一卷ヲ傳フ卷尾ニ柏真葛ト云モノヨリ品治  
 弟方ト云人ニ傳ハタル事ヲ書シ改ノ如キモ  
 ノアリ囀歌ト云モノヲモノス弘安三年二月

サ九日トシルス又一卷神樂ノ譜アリ卷首破  
レテキレタリ尾ニ跋モナク何時ノモノトモ  
シレスアル年ニ京ニ持上リテ並河先生ナル  
モノニ示ス並河ヨリ公卿某君ニミセシメシ  
ニコトニ希ナルモノナリト仰アリシヨシ並  
河カ書状ヲ添テカヘスソノ一二摸シテ附録  
ニ出ス真葛ハ樂取補任ニ正嘉元年任右近将  
監同日御春日詣陪從云トミユ正嘉元年ハ  
康元二年ニテ弘安ノ七二年前ナリ

古下有地村

福山ヨリ三里十四丁戌亥ニ當ル村東西九丁  
又南北二十丁

田畝

八十六丁一反一畝十步

内島三十丁一反十六步

歳額

八百三石四斗三升七合

内島百九十一石八斗六升二合

戸口

戸二百十一

口九百九十二

人内女四百七十六僧六磬二

畜

牛百二十四馬七

人十溝渠

有地川

久田谷川

山方谷川

古事記仁徳記 = 山方ノコトアリ別見

月太池塘

殿奥池

周五丁

新池

周六丁五十二間

小池七十一

堰間

堰二十八

水碓四

小橋約



小橋十五

水邊山溪

石二十

屏風石

小町高五尺長一間半屏風ノ如シ美石ナリ

ユルキ石十二間

推地カロク推カセハ小見ノ指頭ニテモウキカ

久固ヲ入ルレハ力者数人ヲセトモウコカスト云

越前廟墓

民大明神

有地美作守市迫ニアルトキ勸請ス上有地相  
方三村生土神ナリ

八幡宮 有地石見守國武ノ城ニアルトキ勸請ス

六郎志村の神官小田氏ハ代々吉傷津宮乃

神職多て務山ハ祿直の司也彌宜い

吉田官といふとなくいつきも自官あてそ此

官職をはそ乃家よりゆかりと此例より

いふ以て神職めとの名をは先家あて名つ

けられと云

今梅ニ他郡神職多クハ吉田ニテ官ヲウケ  
國名等ヲ授カルコト今ステニ年久シ此家  
ヨリ定ムルコトイツノ頃ナルヤ  
又小田氏ノ系圖をのり事長ク述レテ  
也その始ヨ書ク所大同元年丙戌八月十八  
日始置六道觀察使至平城天皇丁亥三月  
十八日<sup>本</sup>葉相續圓護  
系圖ハ嵯峨天皇をり起リ連綿トスル今  
より多又左衛門大夫道末とリハ時水野孫  
成公宮内村吉伯津宮造宮遷宮ノ社名ノ類ト

して庶列第一望小祓作付その子小田薩摩寺  
道正之孫年中始テ吉田官トシテ道末ヲテハ  
自友可ノその子主殿頭秀俊宝永二年七月八  
月廿六日修五位下ノ任以ト云

小祠三十五

塔寺

本安寺

寶珠山法華宗本能寺本興寺西寺末寺開山本  
任院日領享祿三年庚寅三月十三日寂  
六郡志ノ相方北地有也美作守之蓋ノ菩提

所々ありといふも分りぬがしは厨子此こと  
乃塔何れの内在れ文字を刻刻せしもの  
之盤の法名りし人か元盤一子元森子つくさ  
理法院殿青心日覺 大永二年五月九日  
寶林院殿蓮心日珠  
小水覺院殿妙心日光  
蓮成院殿常安日意  
今按ニ有地一門法華宗ヲ信ス天王寺ニ日  
蓮自筆法華經アルハ有地力子僧トナリ天  
王寺ニ任セシ力持工キレナリト云

小佛屋三  
懸亭三  
常安ノ廣谷ニ藤戸  
古蹟  
大谷九ノ平城  
有地美作守隆信  
備後古城記ニ清元ノ嫡子弘治年中ト云  
今按ニ陰徳太平記ニ永祿五年十月毛利元  
就ニ從テ雲州島根郡ニ打入ニ事ニナリセ  
同此ト云

同次郎石衛門尉景信

同民部少輔元盛

備後古城記ニ美作守トアリ隆元嫡子小早

川隆景ノ臣備前合戦ノトキ秀吉公ニ鎧ヲ

合スト云

大谷今按ニ此二人相方ノ城至タレハコノ所ヨ

リ相方ヘウツリ住セシナルヘシ有地相方

常ニウツルコト上有地ノ所ニミユ

又按ニ宇喜多直家ト毛利家ト備前ノ蜂濱

小折合戦ノトキ有地高名セシ事アリ總叙ニ出

天正年中ナレハ相方村居城ノ時ナルハ

### 市迫城

有地美作守元森

天正年中福田治部大輔ヲ討取國夕ケ城ヨ

森アリコニウワル

### 殿奥城

コレモ元森カ城也元森第九石衛門ツノ次又

左衛門ツノ次八助景臣能宗氏久良氏ノ屋鋪

跡アリ久良社ト云小祠モアリ

有地左京亮

備後古城記コノ有地ノ末葉有地三九郎水

野泉ニ仕テ禄三百石給ハリ物頭役トナ

森信屋鋪

有地九石衛門屋鋪ナリ森信ハソノ實名ナリ

出宿

元森下屋鋪ノ跡

馬場

長三十間餘横八間ハカリ有地カ調馬場ト云

御屋鋪

元森相方ニウツリシノ千コヽニ屋鋪アリト

云々

三歩市

元森奥城ニアツレトキコヽニ市夕テ商人

アツマリト云

箕腰

元森築山ノ跡トテ近頃マテ奇石大小アマタ

ノコレリ今ニナ耕作ノタメニ取棄ラレ猶ス

ノコレリ今ニナ耕作ノタメニ取棄ラレ猶ス

ノコレリ今ニナ耕作ノタメニ取棄ラレ猶ス

ノコレリ今ニナ耕作ノタメニ取棄ラレ猶ス

コレハカリハコルアリト云

其上有地村

通證ニ昔将道ト云ハコノ地ナラント云福山

ヨリ三里二十一丁戌ニアル村東西二十三

三寸十人間南北一里九町三十間上有地下有地

相方三村モト一村ナリ福島ノトキワカタル

計八田畝

百二十三町四反三畝二十五歩此ハ略其數ト云

計内畠五十二丁三反五畝十一歩

計内畠

千人十人石四斗四合

内畠三百二十五石四斗九升四合

大戸口

戸三百八

口千四百二十

内女七百四僧五馨八外茶筥二十六百八十八

本八畜

牛百八十二 馬十八

半百溝渠 二丁 高十八丁

本川

非摩村より下有地村マテ堤長千三百九十八

口間

堀町川

大谷川

池塘 百三十五丁 高四丁

大谷池 八丁 四丁 四合

周六丁三十間

福岡池 正十丁 三丁 正十丁 十合

周四丁四十五間

小池 百三十九

堰 閘

水碓 四

橋 狗

小橋 三十四

山溪

鷹取山

王子山

丹石山

上山  
谷七  
嶺二

サイノ峠

柞摩村へ通ス

コウケ峠

宮内ヨリ尾道へ出ル道

水部廟墓

國司大明神

辨説ニミエモトカケリ

福路地大明神

山崎有地川筋堤往還ニアリ有地美作守勸請

ス此所ヲ今御下屋鋪ト云

松笠龍王

小祠二十二

塔寺

菟黍与梁

供佛奉祖

猗歎群生

入蓮華聚

寛保元年五月廿五日

正崇法霖銘

寺新立備

非因對商

蒙修蹟文

慈由直耳



國司大明神

辨説ニミユモト九西トモカケリ

福路地大明神

山崎有地川筋堤往還ニアリ有地美作守勸請  
又此所ノ今御下屋鋪ト云

松笠龍王

小祠二十二

塔寺

正満寺

溢月隰山浄土真宗大東坊末寺

コノ寺ノ鐘銘法霖力作之霖ハ名夕力キ僧

想事ナリ故ニ録ス

鐘之為體 西藥九乳 官商諧奇 兼徵含羽

古佛之制 非因倭尚 篆刻龍文 應世隨矩

寶杵高懸 以擊以拊 一鼓放兮 鳥獸率舞

君子發省 豈此思武 悲心所託 感動區宇

鬼散幽愁 獄啓深戸 休徵匪小 郊田颺々

獲黍与梁 供佛奉祖 猗歎群生 入蓮華聚

寛保元年五月廿五日

正崇法霖銘



庄力

古蹟

國竹城

明細書ニ竹  
ヲ武ニ作ル

六郎志子福島引渡の節は上有地下有地  
五相方を口々一村よて大永の頃より天正  
の末戸て有地氏三代の頃地より下有地村大  
谷津林の近市米廻とりふ所ありと之れ  
所居地なりとけるか破性ありて人多く失ける  
所は和子より小住所しその内は和方小場を  
築て福路の所と云ふ

有地石見守清元

備後古城記天文三年よりをりめては下に  
位を後下有地村島の奥の城くつり位を  
有地ありと云ふなり

上山城

城主不知

燧城

或云南三河守コトニ在スト

御下屋鋪

福路地明神ノ處ニアリ

古塚十二

大抵横一間左右深二間三間外ニ崩埋タルハ

教シラス

孝子二人

庄助

總叙ニ出ツ

與太郎

同

柞摩村

小福山ヨリ四里十八丁酉戌ニアタル村東西三

十七丁半南北三十四丁半西廣島領御調郡僧

殿仁野平木ノ三村ニ接ス古名多羅摩

本田畝

五十一丁二反十三歩

内畠二十二丁八反八畝六歩

歳額

四百六十四石二斗九升二合

内畠百五十四石一升九合

戸口二

戸百四十二

口六百七十二

内女三百十七

畜

牛八十二馬三十六

五十溝渠

本川

坊原貝野二湖入舟ニテ合ス

池塘

小池十三

橋約

小橋十二

水碓五

財山溪

小澗一

嶺一

小原村ニ通ス府中ヨリ尾道松永ニ出ル路也

石二

八龍王石

神取石

廟墓

八幡宮二社

一ハ江原ニアリ一ハ土カノ水野記ニ天文三年神以城主山名

小祠二十一 理興多羅ノ其ヲ攻シトキ其社體ニテ放テ自害ス  
ソノ後永祿丙寅宮高住再建ストイフ

塔寺

小佛堂二

觀音堂

水野夕ノ子山ホウシヤウ寺ト云跡ナリ

藥師堂

小池ノナヤ山トウシヤウ寺ト云跡ナリ並ニ文

字ヲ失ス

懋亭五

花屋 土壁 別所 ゲヅノ 峠

古蹟

入舟山城

柞摩殿

今按ニ康正二年造内裏國役引付ニ大和兵

二庫今柞摩村段錢アリソノ比コノ人コノヲ

不領セシナルハ柞摩殿ト稱セシ人アルヒ

ハコレナラシ

滑山城

下井石見守

江原山

明細書ニ云江原山千ヤウモク寺ト云一刹ア

リ近比マテ小龕アリテ木佛アリ今ハ龕モナ

ハク佛ハ八幡宮社内ニアリト云

今按ニ神躰ニアシタ佛或ハ地藏等アルハ

カ、ルコト後ニ由来シレスナリユキテソ

レトナシタルハシ行教和尚袖ニ彌陀

佛ミエシト云モ像ニヨリテノ附會ニヤ近

内喜式ニ薬師菩薩神社等アリアルヒハクス

中四ニトヨミテ大穴持ノ命ナルヲ薬師ノ字ニ

ヨリテ菩薩ヲクハシナリトイハトモサレ

内モアルハクニタカハルニエアルハシ

古塚四

妖峠 サイサキ アカサコ 宗貞

栗柄村

福山ヨリ四里乾ニアタル村東西十八丁南北

一里十町西隅少ク廣島領御調師僧殿村ニ接

スムカシハ高木中津土生父石前原マテ府中  
 市イセヤリキマテ町村耳語橋マテ相方城山  
 下有地久田谷作摩土カヘマテスヘテ栗柄十  
 リシト云古名久梨加羅村水野記  
 田畝  
 百七丁九反一畝三歩  
 内畠五十六丁三反九畝七歩  
 歳額  
 千四十四石五升  
 内畠三百五十六石七斗三升四合

戸口  
 戸二百七十二  
 口千二百二十五  
 小内女五百八十六僧六替四  
 同畜  
 牛二百八 馬四十五  
 同溝渠  
 蘆田川  
 谷尻川  
 牛淵



半相方畧ニアリ早年ニ近村飲牛ノ所也

谷麻池塘

蛇池

周三丁十間

夕口池

周二丁四十間

小池八

口十堰

水碓五

内山溪

嶺四

大門

桑土生衣通

南十口毛

仁野村ニ通

二本松

府中尾道通路

泥龜

岩下有地ニ通

石四

八丈石

袈裟掛石

弘法石

大師ノ井トテ水七升ハカリ入クホミアリ

鏡石

同廟墓

南宮大明神

祭神 孝靈天皇吉備津彦命

六郡志云宮内一宮よつとまじり大社より宮

中少男々カ木像十餘體あるを腐朽せり又そ外

佛經若干をむかしハ大社にて神官社傍等も

多くありて月々の神奉あり毎月十三日大股

若經を修したりれとて今よゑて十三日を第

初の日とて祭礼ハ九月廿九日なり

今按ニ或云宮内一宮ト祭神同レ此社南ニ

ありルコト南宮ト号スト又口碑纂記ニ據レ

てハ祭神ハ金山彦神ニテ美濃國南宮社ヨ移

レ祭レルナリイッレカ是ナリヤ通證ニ今

ノ社ハ寛文九年ニタツト云

又云 後冷泉院永承六年十一月授從三位

云云

今按ニコノ事ニ北所ナシ

南宮口碑纂記略

通證ニ載所也事長ケ  
ハ要所ナトリ記ス

于爰當社南宮大明神者号正一位勲一等金山  
彦太神是則伊弉諾伊弉册尊產火之神時生神  
也然金山彦尊号南宮者依南方火德陽神矣  
於此地跡當初傳謂平城天皇之御宇美濃  
邑人流浪而來留當國府中積於年月終成富祐  
家然自天武天皇白鳳之初美濃國不破郡  
府中祭此神後移于南中山自然以後產于美濃

國者為氏之神故更轉於此地而移祭于時大同

二年丁亥也其時謂府中今府川高木中津用土

僧殿栗柄是也故末社處散在貴船之神社上

南古城

大津和氣神社當東市平牛頭天王坤鎮

座僧殿賀美奈美神社在西尾松大尾明神在北大門

社七經藏鐘樓堂神寶之數不遑翰墨松尾平井土

呂毛三箇處凡在五十餘町神田雖然時變世轉

保元平治之亂神寶舊記悉散失就中人王百一

代後小松院應永六年己卯營建之云云此

時終本社而已其後當國大主御調守木梨城主

梶原又太郎殿被寄附四十二貫地至慶長之初  
國主福島正則沒却社領~~矣~~陵廢寔此矣元和五  
年六月正則被配流于信州同年八月水野日向  
守勝成公為當國主日土呂毛神田<sup>上田一反</sup>被  
寄之到正德于今寛文九己酉歲豊田元義三谷  
氏等營建之鳥居延寶六戊午歲造之隨神門釋  
迦堂貞享四丁卯歲建之鐘鑄寶永六己丑歲造  
之畢云云  
納經教品悉記セズ大般若經櫃ノ書付通證  
圖ニノスル所左ノ如シ

奉納大般若經六百軸

南宮大明神御寶前 願主相國寺沙門中高

人名ハ  
略ス

應永二十九年壬寅十二月廿三日

六郎志隨神新古二跡之新き也此は社ノ在  
如く督冠をソリ、  
ハ國の如し

又云左き像ハ永承六年己前ハ彫刻トス  
り隨神ハ古語拾遺曰天照大神入于天石窟時  
群神歌樂令天手力雄神引啓其扉遷坐新殿令



大德小德大仁小仁大禮小禮大信小信大義小  
師説云今之四位  
 義大智小智并十二階五位并以當色キ絶縫之頂撮捻  
 如囊而著緑烏唯元日著髻華云髻華此同  
 德天皇三年是歲制七色一十三階之冠乃至其  
 冠之背張漆羅以緑與鈿異其高下形似蟬小錦  
 月以上之鈿ヲ雜金銀為之大小青冠之鈿以銀為  
 之大小黑冠之鈿以銅為之建武之冠無鈿也此  
 冠者大會饗客四月七日齋時所着焉  
 六郎志子右華衣延文六年神宮寺有看代建之  
 云云

孝靈天皇御墓

六郎志神宮寺北土墓所古き寶篋院塔之  
 是を古き孝靈帝此御墓と云傳ふ皇後子小  
皇後皇後の比敷の土生村のさかひ  
とのかたの風と云所り三町のり  
 則大御神の社河の 孝靈帝の本像二軀  
 本御神跡と云一軀ハ大一て一尺一ハ一尺一を一り一て一彩一色一何一れ一も一束一帯一  
の御乳のあり吉傳の命西道將軍の吉  
 傳國のれの包のしの中の御の又 孝靈帝御後

位此後付不を仙洞としてとて崩所ありけ  
るにやいふふりたし権牧み口よれりて  
考靈帝の墓とめし云傳ふり  
今按ニ此帝ノ御陵ユ大ニアルハカラスア  
月ルヒハ吉備津彦ノ國ニ居タマヒシユハ御  
父ヲコハニモ祭リタマヘリシニヤシカシ  
トモシルハカラタ天武天皇八年三月  
己丑吉備大宰石川王病之薨於吉備天  
皇聞大哀則降大恩云云コノ國ニ陵ノ如  
表キモノナルヒハコルラノ人ヲ葬リシ所ナ

ナルヤ凡三國ワカレシノ午ニ吉備ト稱スル  
大モノアルハ四國ヲ統テ掌ル官ナルハ石  
川王也シコハニ任玉ヒシナラハ南宮ヲ祭  
ルハコノ王ナルハ天武美濃ニ居タ  
目録ニシテ縁アリ吉備官ノ南宮ト云モフルク  
妙是ツタヘシ事ナラハコレニタ証ハカラエ後  
考タマツハシ此官又常村真宮ナトニ古神  
小像多シ圖別ニシユ  
末社七大明神  
貴布禰大明神

貴アツハニアリ

末羽黒大明神

帯乃大明神

六郡志云五原とも田舎依ともりく寺町

よちを

神邊大明神

同書云今へつとよちり五原見氣を越り

森本大明神

大羽大明神

同書云峠よあり

四十禪師大明神

同書小とろとにあり又十傳治ともり

大今按ニ諸社一覽神社啓蒙ニ美濃南宮禰社

四坐アリ内ニ十禪師社ト云ニエ

田和大明神

妙見

加谷ニアリ

小祠三十八

内二十六善神一鳴谷ト云處ニアリ

六郡志ニ木像七八軀ありいつれも腐朽して



分取... 一徳あり... 人々細  
りしや明細書ニムカシ正月十一日ニハ例  
小歳弓ヲ射シトテ弓矢ヲサメアリト云

塔寺

神宮寺

南中山真言宗榮明寺末寺南宮社ニツカフツ  
ノ境内ニアリ開山ニラス  
大般若經櫃ノ書付ニ相國寺トアルハ當寺ノ  
車ヤリト寺僧ノイハリ是非ヲラス南宮寛  
文九年ノ棟札ニハ既ニ神宮寺ト有通證

西龍寺

清教山同宗同末開山省慶  
清教山西龍寺舊記  
備後國蘆田郡俱利伽羅邑清教山醫性院西龍  
寺者、往古者号西明寺、仁王七十三代、堀川  
院之康和元己卯年、廣瀬大膳大夫藤原通明之  
建立云云、仁王百三代、後花園院實徳二度  
午年、土生村用土昌禪再建云云、元禄十一戌口  
七月、住寺贈法印宥慶建立之訖、略中  
一寺領之儀、御調郡木梨邑鷲尾之城、主、摺原又

太郎殿被寄附三十二貫到天正十六年藝州廣島之城主福島左衛門大夫正則沒收之其後元和五年六月正則配流信州同年八月水野日向守勝成公為西國鎮衛福山之城居住之時本尊敷地被寄附之元禄十二巳卯年御檢地被仰付則備前岡山城主松平伊豫守御檢地之時古例通本堂敷地三畝十步觀音堂敷地五畝十步御除地被成高之外也往昔十二坊有悉滅亡而本堂已及大被之間慶安二巳丑年十一月朔日邑中之古先意合為燈明料高二石宛寄附之畧

略

今按天正十六年藝州廣島城主福島左衛門大夫正則沒收之云云福島ナラハ慶長十六年ニアラスヤ年月齟齬ス寺ニ杉原又太郎感狀一通アリ掛物ノ中ハカリメクリテ臺所ノ押マセニハリテアルヨシ掛物ハ蟬ノ又ケカラノ如キヲハ余モミタリ可笑以上通證ニ引テ山号モトハ西教ナリト云小佛屋七懋亭五

四日市 中芝 大門 海田平 段之上

小嶽古蹟

土居城

又板屋城トモ云

大角右衛門尉

備後古城記一本古城記子息右衛門尉重門

天正三年九月三日 出奔ニテ豊後大友氏ニ

仕ノト云 總叙ニ出ツ

徳毛監物

六郎志備後古城記備中府志一本古城記ニ

本城名ハ基門杉原氏ノ家臣ナリト云

南宮後山城

加賀良八郎明細書ニニ工

加山城

福田助三郎土生村ノ杉原ト夕ノカヒ之所乃

寺跡

六郎志子村乃内子寺跡トソハふ多ク寺町

ト云アサナ有けア子ハ尾ノウツ多クウツテ

佛具等ノ地モモトアリ塔ノ跡ト云アモアリ

新市村北高寺中須村東芝寺高村神宮寺  
此鳴谷はありしと云  
今按ニ國守下向ノトキ十四郎ノ治所ナリ  
寺ノ富庶ニ想ハレサレハ寺町ト云所寺刹多  
敷カリシナルハ  
又云めうと云所子石水流あり病を  
此の祈進は長流と云一橋庵ある所子庵の先  
小寺と云を指シけ豆なるマて庵を築し  
南より山と祈りしハ忽流つ豆一ありして是け  
此と應忽と云と云

本風呂

イツレノ城主カ下ヤレキノ跡ト云

四日市

ムカシ毎月コノ日ニ市ヲナセシヨシ胡堂ト

云田ノ名ノヨル

鐘撞堂山

ムカシカ子ツキ堂アリソノ鐘イマ土中ニア

リト云

十六神

鳴谷ノ原ナリムカシハ正月十一日ニ弓ヲ射

七所ナリト云  
乃七十場

大迫山ニテ正月十六日年々弓射シ所ナリ

國分寺跡

鍛冶屋鋪

六郡志ノ戸本ノ記主ノ上ノ山を云々ノ狭く

ノ峯等と山中と云々

又云田舎狐ノ後ノ方汝芦田と云芦田郡物産

間國分寺在系今即國兼行ノ所ノ佐兵ノ事と

本國ノ事若村芦田代色を寺設境故等といふと云

一ノ此國分寺ノ位々いふか

葦田

六郡志ノ村田重振ノ事ノ方を云々

今按ニ和名抄ニノセタル六郷ノ内葦田ト

イハルハコノ所ナル

古今銘盡大全

備後國蘆田郡物之系圖

後乃下上國分寺

助國

銘撰

兼行

助國養子

後正和康  
永正比者之

兼安

兼行子康

永ヨリ至徳  
ノ間者之

金行

兼下上

兼安子何

後正比者之  
永正比者之

一助國一  
れい

七刀ニ  
洛の折外  
大略同去  
之洛後大  
際ハ大刀

兼光

金行才時代 日

重俊

兼光才子同銘之代

刀ノ目  
兼光才子  
に子

行吉

助国弟子  
時代同

秀次

右刀ハ帶面カハ  
後記カキ  
日洛後ノ事

宗

秀次才子  
日洛後ノ事

國土口

一才子  
子ニ洛  
才同洛  
比

親次

大刀ハ帶面カハ  
後記カキ  
日洛後ノ事

日

一才子  
後記カキ  
又才子  
云同洛後  
云同洛後  
云同洛後  
比

右ハ本ノマノヲウツス古刀銘盡ニ國正ト云

一人

土生村

下訓ス福山ヨリ四里半戌亥ニアタル村

東西十八丁南北二十六丁

田畝

五十三丁九反三畝二十九歩

内畠四十二丁二反二畝二十九歩

歳額

四百拾六石五斗四升六合

内畠二百六十五石九斗八升四合

在戸口

戸百十四

口五百七十

内女二百六十外僧二薯四茶筥十一

畜二百六十五八十八廿四分

牛五十九馬三四十六合

溝渠

蘆田川四十二丁二八二畝二十五文

正父石村界ヨリ東極村界ニテ長千六百間

池塘

巳人口池人丁南北二十六丁

周五丁三十二間ヨリ四里半宛文ニテノ林

小池八口真意荒廢御書有テ其邊ノ水ヲ

踏堰開

大井手

長百五十間高七間府川近傍六村用水

小群橋約

府中渡橋

十六間幅二尺五寸

舟戸渡橋

前二十六間幅二尺五寸

水碓二

水鏡廟墓

清瀧大明神

井宮ノウ子ト云

今按ニコノ神号諸村ニ多シ或ハ青瀧清瀧

赤中ノ書

小祠二十三

内ニ御門大明神アリ事別ニ云

大井塔寺

釋迦院

小救護山真言宗榮明寺末寺

六郎志子茂安元年ニ村一宮造實奉終ニ遷  
宮ニ任指範性法印奴僕トモト一字ノ行多  
多子回祿して本寺ナリノ御出ノ過々性位牌  
をハ一ノ悉燬失在ニ此中ノ小傳記由本廟  
トモト云々

通證云當寺元禄六年ノ鐘銘ニ救護山實藏寺

釋迦院トアリ檢地御圖帖ニモ地名ニ實藏坊

ト肩ニカケル處多シ當寺ノ坊舎ノ跡カ又ハ

境内ノ廣カリシニヤ今本尊ノ觀音ハ淵上城

至杉原又太郎守リ本尊ト云傳フ



小佛屋二

通證云大目寺跡如來堂ト云處今田地ノウ子  
ニノコレリ近邊ニ古墳多シ府中明淨寺ノ舊  
趾ナリ明淨寺ノ記ニ栗柄村トアルハアヤマ  
シリ大坊ト云ハモト惣亭ナリシカ近年三疊  
敷ホトノヨキ堂ヲタツコレ榮明寺末寺セ一  
个寺ノ其一也今ニ國俗大師ノクリニハ必參  
詣ス昔ハ大寺ナリシヨシ吉備津宮奉納ノ最  
勝王經ノ卷尾ニ備後國吉田郡共保土村上ノ  
坊トアルハ悲ラクハコレカ或人ノ話ニ櫻堂

ト云所アリ二十年前マテ櫻ノ株ノコリ三四  
人圍モアルハクニエシ近比菴ヲタツト云里  
正ニ間ニ村中菴ナシト云イフカシ

新善光寺

藤原善之備後内ヲ領スル所建領モト百貫  
ノ子孫三十貫末寺寶藏坊長福寺アリ鎮守社  
大宮臣古河ト云人建ト云

今按ニ張福寺如來堂ト云地名アリ或ハ其  
處ニ弘法ノ經名中古ノ人ト三ユレト尋  
ルカヤナシ  
六師志ニ杉原ヲ外梨下ツクル

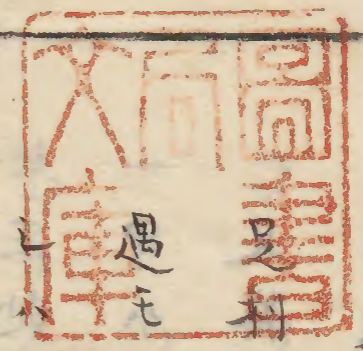


今梅ニ木梨杉原同姓ナレハヲモヒシモヒ  
 亦ニ名乗タル事トシ工上月記ニ康正二年十  
 不二月為入吉野山ニ罷向大和人教着到ノ内ニ  
 關土木梨三郎アリ府川法樂寺棟札ニ元經等ハ  
 木梨ニツクル杉原七郎右衛門尉經珍一本  
 高七左衛門ニツクル  
 杉原宮内大輔廣盛  
 文祿二年落城  
 杉原又四郎備中有志ニ出  
 又梅ニ又四郎師直カ催促ニ應レテ足利直

冬ヲ鞆ニセム又四郎或ハ又次郎カ誤ニハ  
 アラスヤ然トモ参考太平記ニ金勝院本ヲ  
 引テ四ハ五ニツクル名ハ利孝ニツクルト  
 一モシクハ又次郎為平ニハアラスサレハ信平  
 ノ注ニ南都天正本ヲ引テ四ヲ次ニツクル  
 六郡志ニ杉原木梨氏の子孫と稱スルモ此所  
 手多シ良厚ノ義功ニ多クテ木梨鹿道町同族



名ハ見ヘスリハ時ハ至極ノ小勢ニテ備後  
 人ハルニハトツキ随フ時ニアラス將軍  
 大軍ニテ上ラレシ時執ニ逗留シテ軍議有  
 リ其時トトニ馳参リテ随行セシナルハシ  
 代々ノ書ニ宮杉原等タヒニニ工罷  
 遇モナリニニナラスニユレハ初ヨリ從ヒ  
 ウタカヒナシ



古塚一

横一間半入り四間

孝子

長五郎

總叙ニ出

小人

同





